

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) アサヒ飲料株式会社明石工場

1 環境保全活動に関する方針等

1 - 1 環境保全活動に関する方針

アサヒ飲料株式会社明石工場は、アサヒ飲料株式会社が定める「環境保全の基本方針」に則り、環境の維持・改善に積極的に取り組み、環境保全型社会を作り上げるために、以下の環境方針を定めます。

明石工場は、兵庫県南部、瀬戸内海岸線沿いの人工島内に位置し、見渡せば、明石海峡大橋や淡路島を一望でき、瀬戸内特有の温暖な気候と風光明媚な自然環境の中で、清涼飲料水等を製造し提供することによって、世界の人々の健康で、豊かな食生活の実現に貢献することを事業目的としております。

事業活動の推進に当たっては、お客様の期待に添う高品質で安全な清涼飲料水等を製造・出荷することに加えて、周辺環境の中で、環境の維持・改善に積極的に取り組み、環境保全型社会を作り上げるために、地域の環境保全に努めます。

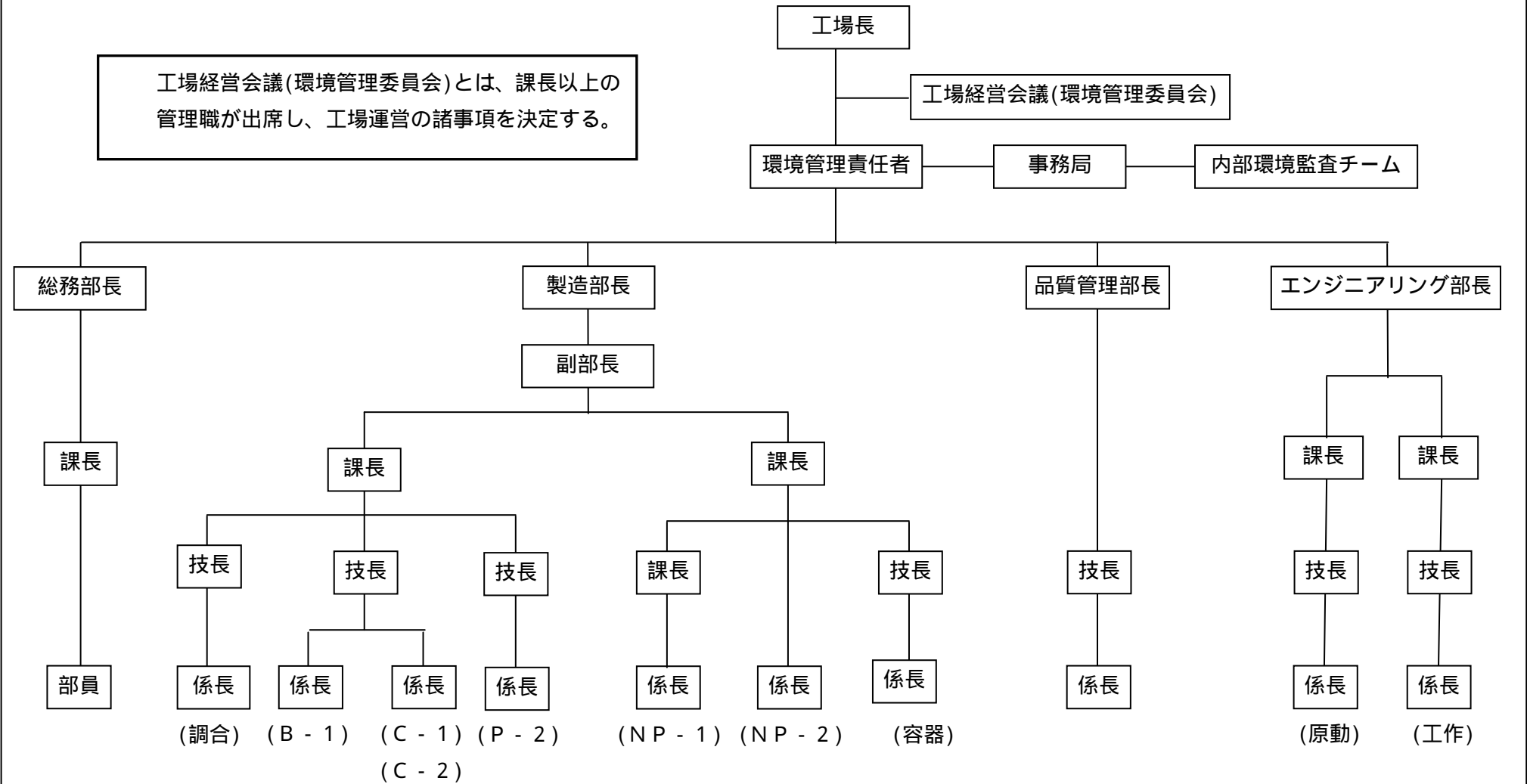
1. 環境の維持・改善・向上のため全社員で継続的に取り組みます。
2. 法、県条例等を順守すると共にアサヒ飲料株式会社の「環境保全の基本方針」及び「行動指針」を踏まえた活動を推進します。
3. 工場として環境目的及び目標を設定し、定期的に見直しを行うことによって、環境負荷の継続的改善及び汚染の防止に努めます。
4. 廃棄物100%再資源化の継続、並びに廃棄物発生量の抑制に努めます。
5. 省エネルギー、省資源の推進に努めます。
6. 環境保全から更に一歩進めた環境経営への移行を目指します。

尚、本環境方針は、全従業員並びに当工場の為に働く人々に周知・徹底されると共に、外部に対しては求めに応じて開示します。

2007.01.01

アサヒ飲料株式会社 明石工場 工場長

1 - 2 環境保全活動に関する組織体制



2 - 1 環境保全活動に関する計画

目的	目標	目標達成のための計画、方策
<p>環境保全のため、法、県条例等違反ゼロ件が継続できる仕組の構築並びに異液等の場外流出事故を防止するシステムを構築する。</p>	<p>日常管理レベルを強化し、環境関連法適合違反件数ゼロ件を継続並びに廃棄物の雨水配管からの流出を防止する。</p>	<p>場外への薬液等の流出防止を図るため、場内排水経路の整備並びに雨水系統への異液流出防止施策を実施し、環境関連法適合違反件数ゼロ件を継続する。</p> <p>排水処理設備の安定稼動を目的としたリスクアセスメント手法による対策を実施する。</p> <p>産業廃棄物管理票、廃棄物収集運搬 / 処分許可証、廃棄物に関する契約書の整備を実施し、第三者が管理状況を把握でき得る状況とする。</p> <p>P C B 廃棄物の保管状況を定期点検（月 1 回）し、処分手続きを完遂する。</p> <p>環境教育訓練を通じて、雨水排水溝への廃棄物流出事故を防止するため、日常管理の継続を確認すると共に廃棄物の雨水排水溝への流出を最前線で防止出来得る運用管理継続を図る。</p>
<p>資源の有効利用を図るため、再資源化率 100% を継続する。</p>	<p>廃棄物再資源化 100% 継続するために、1 回 / 年再資源化先の視察を実施し、適切に再資源化されていることを確認する。</p>	<p>全ての産業廃棄物について定期（1 回 / 年）の再資源化先点検を行い、適切に再資源化されていることを確認する。</p>
<p>環境負荷低減への継続的改善活動を実施する。</p>	<p>工程改善施策を行い、環境負荷低減のために無駄な製品排水・廃棄物の削減を行う。</p>	<p>品質管理部での環境負荷低減（不具合品発生の低減）を図る施策を実施する。（製品安全委員会の開催、Q A 点検の実施、品質ミーティング実施）又、工程不具合対応により品質の改善を図り、廃棄品の発生防止を実施する。</p> <p>壘列の入味検査機における製品廃棄率を前年対比 15% 削減させる。</p> <p>缶列の入味不良による製品廃棄率を前年比 15% 削減する。</p> <p>P E T 列の人的防止、設備トラブル防止による廃棄損失（液量）を 08 年以下に削減する。</p> <p>人的調合ミス防止による製品換算調合液廃棄量を 08 年以下に削減する。</p> <p>容器（A）ブロー機及び射出成形機トラブルによる排斥品を低減させ、年間累計歩合を前年比 0.5% 向上する。</p> <p>新ブロー機のトラブルによる排斥品を低減させ、原材料歩合 98.0% を達成する。</p>
<p>地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出原単位を、2010年に1990年原単位に対し6.0%削減する。</p>	<p>燃料、電力、用水原単位を施策により対前年比1%削減する。</p>	<p>工場全体のユーティリティー原単位削減目標(前年比 1%) に対する実績の確認・評価・差異解析を毎月実施すると共に、目標達成に向け継続的に省エネルギー施策を実施する。</p>

環境経営への移行を図るための施策を継続する。	環境経営への移行施策として、有機性廃棄物の嫌気処理設備設置工事を完了させる。	環境経営への移行施策として、有機性廃棄物の嫌気処理設備の設置工事をスケジュールどおり進捗する。(2009年4月試運転開始、2009年第4四半期減容化率80%達成)
------------------------	--	---

2 - 2 環境保全活動に関する実施状況の報告

項目	取組結果	今後の取組計画
環境保全のため、法、県条例等違反ゼロ件が継続出来る仕組みを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物に関する契約書・管理票等の整備実施。 ・場内排水経路の点検整備実施。 ・排水処理設備の脱臭設備設置の完工。 	今後も継続実施
資源の有効利用を図るため、再資源化100%を継続する。	廃棄物再資源化100%を継続するために、1回/年再資源化先の視察を実施し、適切に再資源化されていることを確認した。	今後も継続実施
地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出原単位を、2010年に1990年に対し6.0%削減する。	二酸化炭素排出原単位 <ul style="list-style-type: none"> ・1990年：82.6kg/k1 ・2008年：69.5kg/k1 16%削減 原単位削減 <ul style="list-style-type: none"> ・燃料原単位削減目標：1% 実績：5.97% ・電力原単位削減目標：1% 実績：3.61% ・用水原単位削減目標：1% 実績：1.51% 	今後も継続実施
環境経営への移行を図るための施策を継続する。	環境経営の移行施策として、2009年7月本稼動を目指し、有機性廃棄物の嫌気処理設備の設置工事をスケジュールどおり進捗中。	計画どおり進捗中